

郷土を愛する心を育む学習、すなわち「郷土平泉学」をさらに拡大・発展させてまいります。世界文化遺産に登録された資産の整備・活用のみならず、町内各地に存在する有形無形の素晴らしい地域遺産を町民の皆様と一緒に顕彰してまいります。

また、キャリア教育や卓越した英語教育に取り組むほか、大学など、様々な教育機関との連携を促進し、国内外で活躍できる人材を育成してまいります。

次に急速に進む少子高齢化社会への対応についてであります。この問題は、当町に限らず先進国全般が抱える大きなものですが、子育て支援の充実、乳幼児を抱える女性が集える場の整備を進め、女性や若者の活動を積極的に支援してまいります。さらに、脳卒中予防やがん対策の取り組みなど、町民の健康を守る施策を展開し、安心して老後を迎えられる環境をつくってまいります。

また、放射能対策につきましても、町民が安心して暮らせるように、国や県などと連携を図りながら適切な対応に努めてまいります。

次に地域資源を活かした産業振興についてであります。当町は、第1次産業が中心のまちです。そこで農業と観光、商工業の融合を図り、特に6次産業化により農業で生計が成り立つ豊かな地域の実現を目指してまいります。道の駅事業については、本来の目的である農業振興を前面に押し出して進めてまいります。

次にゲリラ豪雨など過去に体験したことのない自然災害に強いまちづくりの推進についてであります。近年は、全国各地で大洪水や竜巻などが起きており、昨年の豪雨災害を見る限り、当町も例外ではなくなりました。これらに対応するため、町内河川の内水被害対策を進めるなど、町内の防災対策を再点検し、さらに消防団を先頭とした自主防災組織の連携強化を図ってまいります。

次に町立体育館とスマートインターネットチェンジの建設についてであります。体育館の建設については、町民との合意形成をしっかりと図り、取り組んでまいります。スマートインター

チェンジの建設については、町の負担が極力少なくなるように、国などと協議を進めてまいります。

次に国際リニアコライダーの建設実現と地域の活性化についてであります。国際リニアコライダーの建設については、国際的な研究者グループが、北上高地が最適地であると判断した段階に止まり、未だに国も建設に関する決定を行っていない状況にあります。この建設が実現するならば、当町のみならず、広域の産業や経済にも好影響を与えることが想定されます。

しかしながらあまりに巨大なプロジェクトであり、建設事業を不安視する声もあります。町として、きめ細やかな普及啓発に努めつつ、町民の理解を充分に得ながら、取り組みを進めてまいります。

最後に愛される職員づくりについてであります。私は常々「仕事は、楽しいものでなければならぬ」と考えております。職員が自分の仕事に誇りを持ち、満足していなければ、町民に対して最高のサービスを提供できま

せん。一方で、行政情報のオープン化を推進し、職員と町民相互の信頼関係をさらに強固なものとし、主役である町民とともに職員と一体となってまちづくりを行ってまいります。

以上、今後の町政運営の基本について申し述べました。

このたびの選挙をとおして、たくさんの方々の町民の方々から多くのご意見を頂きました。町民の知恵と経験と情熱を集め町政に反映することで、平泉はきっと素晴らしい町になると確信しております。

明日の平泉をつくる主役は町民です。町民の皆様と力を合わせ、チーム平泉として、未来へゆめと希望、そして誇りをもてるまちづくりに全力を尽くす覚悟です。

議員皆様のご理解、ご協力と町民の皆様の町政への参画を心からお願ひ申し上げます。私の所信表明といたします。

平成26年9月9日

平泉町長 青木 幸保



青木町長就任後初となる町議会9月定例会が9月9日から19日まで開かれました。青木町長は初日に、今後の町政運営に対する考えについての所信を表明しました。今月はその内容を紹介します。

このたび、平成26年8月27日付けで平泉町長に就任いたしました青木幸保でございます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

本日、ここに平成26年第3回平泉町議会定例会が開催されるに当たり、今後の町政運営に対する考え方について、私の所信の一端を申し述べさせていただきます。

我が国の経済は、いわゆるアベノミクスの効果により、長年続いたデフレ経済を脱却しつつあり、緩やかではありますが景気回復の兆しが見え始めております。しかしながら一方で、TPP交渉に伴う農政改革、安全保障や近隣諸国との外交問題、未だ道半ばの東日本大震災の復興、人口減少、少子高齢化を背景とした医療、介護、年金といった持続可能な社会保障制度の確立など、国内外に多くの課題を抱えたままであることも事実です。

このような状況のもと、平泉町は、時代のすう勢を見定めつつ、当町ならではの独自性を強く前面に押し出し、しっかりとまちづくりを進めていく必要があります。そのため私は、町民、さらにはその代表である議会との対話を一層重視・尊重しつつ、町民総参加の仕組みを構築して取り組みを進めてまいります。

次に世界文化遺産を活かしたまちづくりの推進についてであります。「平泉の文化遺産が世界文化遺産登録を果たし、その名を世界に知らしめた今、その効果を農業そして商工業に波及させ、経済的に豊かな地域づくりに役立ててまいります。

また、観光客をはじめとする多くの来訪者と町民が、楽しく和やかに交流できる場を設けてまいります。

次に教育についてであります。当町のような小規模自治体においては、人材こそが財産です。そこで手だての一つとして、